

## 『第15回 関西がん治療と妊孕性温存の研修会』のご報告

2024年12月8日にIVF大阪クリニックで開催しました『第15回 関西がん治療と妊孕性温存の研修会』のご報告です。

今回は大阪公立大学医学部附属病院の造血細胞移植コーディネーター 梅本由香里さんから『移植コーディネーターから見る血液疾患患者の移植と妊孕性温存への思い』について、HORAC グランフロント大阪クリニックの不妊症看護認定看護師 金田真紀さんから『妊孕性温存治療 生殖医療の看護支援と現状について』について、IVF大阪クリニックの胚培養士 井谷裕紀さんから『妊孕性温存医療の実際』について講演をしていただきました。また、情報交換会としてグループディスカッションを行いました。

血液疾患と造血幹細胞移植、移植の意思決定支援から移植施設での妊孕性温存支援の実際まで事例も交えて学ぶことができました。また、妊孕性温存治療の実際において、ひとりひとりに丁寧に寄り添いながら意思決定のサポート、心理的サポートをされていることを学ぶ事ができました。凍結保存技術や検体管理方法について知ることで、患者さんが安心して配偶子や胚を預けられると思いました。

参加者のアンケートでは、講義内容に関して「原疾患病院での治療がどのように進んで行くのか知る事ができた」「移植コーディネーターの仕事を知れて勉強になった。事例のお話しが、とても興味深かった」「分かりやすく勉強になった。温存後のフォローがしっかりしていて参考にしていきたい」「普段見ることのできない培養士さんのされていることが知れて勉強になった」等の回答をいただきました。

意見交換会では、「がん医療側だったので生殖医療の方々とお話できてよかった」「他施設の現状がわかってよかった」「困っている場面についてアドバイスをもらえた」など、実際に参加者が交流することで共有できた情報がたくさんありました。

当研修会は、看護職を対象として開始しましたが、今回は医師・看護師・培養士・移植コーディネーター・心理士など多職種の方と顔を合わせて交流し、意見交換も活発にできて更なる連携に繋がるための大変有意義な時間になりました。

今後も、がん医療側と生殖医療側の医療者が共に考え、より良い支援体制や関係性を築くことができるように研修会を継続していきたいと思えます。

関西がん治療と妊孕性温存の研修会  
事務局 下西祥子